

プライベートスペースから見る夫婦関係

○毛塚和宏 (九州大学)

1. 問題

住宅の構造と家族との関連に焦点を当てた研究は、建築学・都市計画の観点からが多く、家族社会学的な観点からは多くない。本研究では、住宅と家族との関係性の中でも夫婦のプライベートスペース（以下 PS と略記）と夫婦関係満足度との関連について分析を行う。

2. 検討する仮説

本報告では、夫婦関係満足度と PS にかかる 2 つの問いを検討する。一つ目の問いは、PS が夫婦関係満足度に与える影響である。これは相反する二つの仮説が考えられる。α) PS の存在によって、団らんの時間が減少し、夫婦関係満足度は低下する、β) PS の存在によって、家族の役割期待から離れる時間を確保することで、夫婦関係のリフレッシュができるので満足度は上昇する。この 2 つの仮説を検討する。

二つ目の問いは、調査法に関連する問いである。夫婦関係満足度を回答する際に、配偶者が見えている場合、回答にバイアスが生じる可能性がある。具体的には、社会的望ましきバイアスに起因する配偶者への高評価などである。このようなバイアスが生じる可能性は、1) 配偶者が実際にいるか否か、2) 調査対象者がスマートフォン・質問紙のいずれを用いて回答したか、3) PS が存在するか否か、によって左右される。よって、まずそのようなバイアスが存在するのか、そしてそれがより顕著に出るのはどのような状況か、を確認する。

3. データと分析方法

分析に用いるデータは「子育て世帯にやさしい社会づくりに向けた全国調査」である。この調査は、2023 年生まれの日本全国の子ども 3,200 人を住民基本台帳から抽出し、その親に回答を依頼する形で行われた。調査は 2025 年 2 月～3 月に行われ、有効回答数は 2,553 ケース、有効回収率は 53.2% である（詳細は第一報告を参照）。

本研究で用いる主な変数は次の通りである。被説明変数は夫婦関係満足度（11 件法）である。説明変数は以下の 3 つの変数を用いる。a) PS を尋ねた設問「現在のお住まいに、1 日のうちどこかで、あなたの仕事や読書、趣味などに集中できるプライベート空間はありますか。あてはまるもの 1 つに○をしてください。」選択肢は「自分専用のプライベート空間がある（専用 PS）」「家族と共用するプライベート空間がある（共用 PS）」「プライベート空間はない」の 3 つであり、これらを「プライベート空間はない」を参照カテゴリとした質的変数として用いる。b) 回答時に周囲に誰がいたかを尋ねた設問「今現在、あなたの回答が見える距離に人がいますか。あてはまるものすべてに○をしてください。」マルチアンサーであるが、「配偶者がいる」に○をつけたか否かのダミー変数として用いる。c) 調査対象者が実際に質問紙に記入し郵送で回答したか、スマートフォンで回答したか、郵送回答ダミーとして用いる。

統制変数として年齢、学歴、子ども数、配偶者年齢、配偶者学歴、結婚年数、暮らし向き、住居種別（持ち家（一戸建て、マンション）、借家 etc.）、延べ床面積（m²）を用いる。サンプルを既婚者に限定したうえで夫・妻に分け、それぞれ夫婦関係満足度を被説明変数とした線形回帰分析を用いて分析を行う。

4. 結果

PS の効果に関しては、妻については共用 PS が正の効果をもたらし、夫は専用 PS・共用 PS とともに正の効果をもたらしていた。また、夫妻どちらにおいても、回答時に配偶者が見えている場合は、夫婦関係満足度が上昇することが明らかになった。

本研究は JSPS 科研費 23K25587（代表：佐々木尚之）の助成を受けたものです。

（キーワード：夫婦関係満足度、プライベートスペース、住宅）